

第2回 日野市保育の質ガイドライン策定委員会 —要点録—

1 日時場所等

- (1) 日 時 令和5年11月28日(火) 午後2時00分～午後4時10分
- (2) 場 所 日野市役所本庁舎5階503会議室
- (3) 出席委員 井口眞美委員長、野原久代副委員長、佐藤道枝副委員長、根津正孝委員、
上原直実委員、佐々木滋委員 ※オブザーバー 大澤朋子氏
- (4) 欠席委員 なし
- (5) 事務局 子ども部保育課整備調整係 飯野成路、森航太、小野早苗

2 要点録

1 開会

2 保育に関する国・都・市の動きについて

- (1) 事務局からの説明(日野市保育の質ガイドライン策定委員会第2回資料参照)

- (2) 質問・意見

(井口委員長)

日野市としても様々な理由から待機児童が増加し、その解消に向けて多様な取り組みがなされ、保育の量的にも確保ができているということだったかと。その中で保育の質が求められており、それがこの保育の質ガイドラインの策定につながっているのかと思う。

(根津委員)

幼児教育・保育の在り方検討委員会は既に動いているのか。そこで検討された内容は本ガイドラインに盛り込むのか。

→現時点で第6回まで会議を行っている。幼児教育・保育のあり方検討委員会の中で検討した内容については、皆様に一定の報告、共有をして、必要に応じてガイドラインにも反映ができたと思う。

(野原委員)

男性保育士に対するアプローチについて必要なのではないと思う。男性保育士は増えてはいると思うが、やはり就職率が上がらないという事実はある。角度を変えれば、女性の職員が性的虐待をしないと限らないと思う。ただ、男性であるというだけで、子どもに対する興味はあり、その苦悩があると感じている。男性職員がこれだけ保育士不足であることを考えると、その門戸を開く必要があるのかなと思う。ただ、資質として男性と女性の保育士の役割で違うところはあるとは感じている。現状、男性保育士が働きやすい現場ではないような気はしている。すごくデリケートな問題ではあるが、もしこういう内容を盛り込んだガイドラインを読んでもらって、少しでも就職の手助けになればとも思う。

→そういったところも、このガイドラインでコラムのような形で載せても良いかと思う。

保育園としても何かルールみたいなものがあるって、それを明示出来たら保護者も安心できるだろうし、ガイドラインの中でそのようなエピソードを盛り込んで、男性職員もウェルカムですよと

示せるのも大事かもしれない。

(井口委員長)

多様な支援のニーズについて、日野市として方向性等はあるのか。

→誰でも通園制度という事業について、モデル事業として全国的に実施している状況。

区部では枠以上に申し込みがあったりしているようで、それなりにニーズはあるのかなと思う。先日子ども家庭庁と話をすることで、待機児童が減ってきて、区部では空きもあるような状況の中、そこに対する支援はないのかと確認したところ、そこに対する支援はない代わりに空いているスペースに対して多様なニーズに応じていくというような話があった。

ただ、受け入れる側の空き状況等もある。

0～2歳児に求められているところで、施設の空きもないような状況ではあるので、市として今後慎重に検討していく必要があると考えている。

3 事例集について

(1) 各委員からの事例の共有

(たかはた台保育園) 4月の3歳保育の進め方について(乳児クラスから幼児クラスへ)

(もぐさ台保育園) 小学校への接続

(日野保育園) 医療的ケア児(子どもへの理解と保育)

(2) 事例集に関する意見交換

(佐藤委員)

事例記載シートを書いていく中で、これも「ねらい」かなと、どんどん増えていくところがあったし、保育の経緯と考察を重ねて書いてしまったところもあった。

保育士が書きやすいように、例えば簡単に1行、2行で書けるような書式になっていると良いかもしれない。

項目名について対象にしたものが大きいところだったため、ねらい等もどんどん増えていってしまった。考察についても、私はこう思ったけれども、他の人はこう思ったなどの意見についても入っていたりしたほうがいいかなとも思った。

(井口委員長)

大きい活動についてのご紹介については、あれもある、これもあるという風になるので、保育ドキュメンテーションのようなやり方もあるのかなと思う。

(事務局)

一覧表についてはあくまでも案なので、それについてもご意見等いただければと思う。

項目によってはこの記載シートにそぐわないところもあるかと思うので、この項目はこっちの書式がいいねと、分けができるとありがたいなと思う。

(佐藤委員)

一覧表の項目はだいたい網羅されていると思うので、これ以上増やさなくていいのかなと思う。

(根津委員)

事例を記載するにあたって、例えば医療的ケア児や障害児の受け入れの個別的な事例を載せてし

まうと、保護者がそれを見てどんどん入所希望者が来てしまうことも考えられる。施設としてもどっと来られてしまうと受け入れられない場合もある。

(野原委員)

このガイドラインで全てが網羅されているとは考えていなくて、これを見て参考にし、応用していくことが大事だと思う。施設として出来ること出来ないことがあるとは思っているので、そういうヒントとして捉えればいいと思う。

項目によってはやはり記載する様式が変わってくるかなと思う。

こういう時にどうしようと書くときは、おそらくイレギュラーな部分が多いかと思う。素朴な保育観や保育方針はそれぞれの先生方が持っているとは思っているので、そこまで細かい項目まで書かなくていいとは思いつつ、拾いすぎると取っ散らかっちゃう部分もある。

大区分、中区分、小区分と分けられているとわかりやすい。

(井口委員長)

事例の中で、良い部分ももちろんアピールするが、子どもはこういう不安を持っていてとか、その事例の難しさを赤裸々に出してもらえるととても参考になる資料になるのではないかなと思った。

医療的ケア児についても、入園後そのことが判明したということが多いため、入園後こういうことが起きたんだという事例としてご紹介いただくのがいいのではないかな。医療的ケア児を前面に出して受け入れている保育園とは違うという前提で。

(事務局)

このガイドラインは働く保育士や保護者のための辞書になればいいかなと思っている。事例が多ければ多いほうがいいと思いつつ、項目によってはたくさん事例が集まるかなとも思っている。医療的ケア児や障害児の項目など、もし事例で個人情報が入っているようなところがあれば園名を隠してということも考えられる。

(井口委員長)

保育ドキュメンテーションみたいに写真等で視覚化したほうが今の若い人にとっては見やすいのかなと思った。また、より具体的なところを事例記載シートに書かれているといいかなと思った。個人情報の部分は伏せていただくようにしたほうがいいかなと思う。

同じ悩みを持った他の保育園と連携をとったというような事例も載っているといい。

(佐藤委員)

説明がなくても、ガイドラインを読むだけでわかるということが大事だと思う。

(事務局)

ちなみに、事例については今後市内の各園に出してもらおうよう依頼する予定である。

(野原委員)

項目ごとに記載シートがあって、書き方のポイントなど、記載例があると書きやすい。

事例記載シートにナンバリングして、この項目はこのシートを使ってという風にやれたらいいかなと思う。

(事務局)

事例についてはこの意見交換を踏まえ依頼させていただき、事例集の見せ方については今後検討していければと思う。

(大澤アドバイザー)

各保育施設から出てきたものは、最終的にどこかがチェック、整理するのか。

(事務局)

最終的にはこちらの委員会か作業部会等でブラッシュアップしていくようになるかと考えている。

(3) 今後の進め方について (事務局より)

- ・今回ご意見をいただいた内容を基に事務局で検討し、事例記載シートに反映させたのち、12月中に各保育施設に事例の依頼をする予定。
- ・依頼にあたり、事前に各園から事例一覧表の中から事例を出せそうな項目を募り、事務局の方で精査させていただいて、各園の割り振りを決めさせていただければと考えている。
- ・2月中旬頃を目途に各園から事例を出していただいたのち、第5回の委員会で事例・コラムのブラッシュアップを行い、第6回で事例の構成の確認ができたらと考えている。
- ・第4回では事例がまだ集まっていないので、構成について検討できればと考えている。

4 その他

【次回 (第3回委員会) について】

令和5年12月19日 (火) 14時~16時 日野市役所本庁舎5階 503会議室

内容 (予定)

- ・事例集について (第2回策定委員会を踏まえて)
- ・日野市保育理念に関する意見交換について

5 閉会